

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873300368		
法人名	社会福祉法人 明照会		
事業所名	グループホーム 菩提樹の家		
所在地	伊丹市中野西1丁目7番3号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	2015年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2015年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「ビハーラの理念」の基、尊厳の保持を第一に、その人らしい生活ができるよう、利用者様の気持ちに寄り添い、見守りながら、さりげない支援を心掛け、安心と自信に満ちた日々が過ごせる様支援しています。科学的介護を取り入れ根拠に基づいたケアを実践し、専門性の高い認知症ケアが提供に努めており、ご家族や主治医、訪問看護との連携を密に在宅に近い形での看取りケアにも取り組んでいます。木々に囲まれた平屋建て日本家屋のホームは、各居室に畳が敷かれ住み慣れた自宅に近い住環境となっている。調理や掃除等の家事の外、中庭の畑や池の鯉の世話、ホームの前道路の落ち葉掃除など、様々な屋外活動では、行き交う方々との交流もあり、地域の中で生き甲斐と楽しみのある暮らしの継続を支援しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングの出窓からは、深い木々の緑が木漏れ日となって映っている。平屋の和風造りのしつらえがされた、なつかしい風情のある建物である。グループホームの特性を活かし、科学的根拠に基づいた認知症ケアを目指している。職員は、自ら目標を掲げ、目標達成に向け、主体的かつ具体的に取り組むとともに、生活の中で無理なく楽しく続けられる体操を工夫したり、常に利用者の意志を尊重した言葉かけに努め、利用者が「大事にされている」と感じられる対応を心がけている。少人数であることから、一緒に行動することが多くなるが、一人ひとりの得意なことや好きな事を見出し、尊重することも大事にしている。今後も、職員の積極的な意欲を糧に、利用者の第二の我が家のような心やすらぐホームとなることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体施設のビハラの理念を基本に利用者の尊厳に重きを置きホームの大目標「優しいケアで元気に笑顔でいきいきと」を実現する為、毎日唱和している。	法人理念を基本とし、半年毎に、職員で独自の目標を掲げ、実践に活かしている。毎日声に出すことで、職員一人ひとりの意識を高め、より定着を図るよう努めている。職員は、目標達成に向け課題を明確化し、主体的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し苑の行事にも地域を招待し交流の場としている。ホームの前の掃除や日々の散歩等の外出時には近隣の方の挨拶をしている。	継続して、地域の季節行事への参加や周辺道路の清掃を行っている。コンビニへの買物や散歩時には、気軽に挨拶することも増え、主催行事には地域住民の参加も多く、盛況となっている。近隣や併設保育園との交流も利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人内の在宅介護支援センターが実施する認知症講座等の告知や参加促進を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4金曜日に開催している。状況報告やこれから取り入れていきたいケアを書類上の報告だけでなく、パワーポイントで分かりやすく説明し活発な意見交換が成されている。	地域代表、市担当者、地域包括、利用者、家族等が主なメンバーである。行事報告を通じて利用者の様子を伝えたり、各ボランティアの活動紹介、防災訓練の案内等を報告している。地域代表からは地元の行事等の情報提供もある。利用者、家族の参加も多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のGH連携会が2～3ヶ月に1回あり、GH管理者・小規模多機能管理者・市職員が参加し、意見・課題などの情報交換や事例検討会、見学会を実施しており、市の担当者との関係作りにつながっている。	日常的な事務連絡等のやりとりはある。GH連携会での意見交換は活発で、貴重な情報交換の場となっている。主に事例検討や現状報告、事業所間の交流も行われ、連携会を通じて市との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で取り組み研修も設けている。拘束ゼロ委員会によるアンケートや抜き打ちチェックも実施され、職員の意識も自ずと高くなっている。やむを得ず玄関に門をしているができる限りの付添外出を行い、午後からの時間帯は門を外すよう心がけている。	スピーチロックや拘束等の内部研修に力を入れ、施設として委員会を中心に取り組んでいる。玄関は、死角となっており、職員の見守りや個別の外出で、利用者の閉塞感を無くすよう努めているが、やむをえず施錠することもある。引き続きの検討課題としている。	職員間での継続した検討を望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で毎年研修を行い正しい知識を学び、事業所内でも不適切なケアと成りうる行為について話し合い虐待防止への意識付けをしている。	上記同様、研修にて職員の意識づけを図っている。日々の申し送り時に、不適切なケアへの注意を職員に周知し、意識統一を図るよう努めている。職員同士の馴れ合いからくる、緊張感の低下を防ぐことにも努めている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体で研修を実施し、職員が正しい知識を学び、家族交流等でパンフレット等を用いてわかりやすく説明し必要があれば活用できるように支援できる体制がある。	法人として毎年研修を実施し、職員は定期的に学ぶ機会がある。日常生活自立支援事業についても、おおまかではあるが理解している。資料等は常設し、いつでも見れるようにしている。家族会でも情報提供するなど、活用への積極的な姿勢がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規利用時は重要事項説明書により理解・納得をいただいている。制度改正等による変更等は運営推進会議や家族面会時等に説明し承諾を頂いている。	利用者、家族からよくあがる医療面や退所時等に関しては、納得のいくよう丁寧な説明を心がけている。特に事業所のハード面の現状から、終末期の対応は困難なことを伝えている。事業所として、今出来ること、出来ないことを理解してもらうよう努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加の行事や、家族会などで意見が言える様な雰囲気作りに努め、また利用者家族同士で話し合えるよう配慮している。運営推進委員会等でもパネルで普段の生活を紹介して、気づきやささいな事も貴重な意見として頂き、より良い運営に向に繋げる様努めている。	運営推進会議以外でも、家族会開催、行事参加の家族との交流や、家族のみの懇親会を通じて情報交換を図っている。普段の来訪時には、こちらから声をかけるなど、別に時間を設け話しを聴いたり、相談することもある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署会議には職員・管理者・苑長が参加し職員が積極的に意見を言える場となり、日々の申し送りでもささいな気づきを議論する事ができる。	毎月、代表者も出席して全体会議を開催している。事業所は、職員が気軽に意見や提案を出せる環境に努め、職員の積極性、主体性を尊重している。テーブルや椅子の設置、利用者のケア方針等、具体的に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス構築会議を設定し、人事考課、評価項目など検討して給与に反映し職員の働きやすい、やりがいが持てる環境整備を構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修支援制度を設け、職員が望む外部研修への積極的参加を促し、職員の力量に合わせ次へのステップアップを図るため、法人からの命令により勤務として研修を受ける事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着型サービス連絡会では各施設見学を兼ねて会議開催し、情報や意見交換、事例検討会が実施されている。母体施設とは常時交流がある。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、センター方式の書式で家族より聞きとり、本人のニーズ・要望を伺い、できる限り本人の気持ちに添って安心して頂けるよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族の思いや不安など、家族の立場に立って傾聴し、本人のみならず、家族の気持ちを受け止め支援していくよう努めている。入居直後は特に報告を密に行い不安軽減と随時生まれる要望に応えられるようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画の作成時、その時のニーズをとらえ、本人や家人の意見を聞きながらプランを作り、対応している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が暮らし難いと感じる部分は、さりげなくお手伝いさせていただくが、共に生活する人生の大先輩との意識で接し、暮らしの知恵を拝借するなど、相互に支え合う関係の構築に努めている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の不安や思い、喜びを家族と共有し、家族から支援の提案や協力を得ることもあり、共に支援する関係づくりに努めている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月のお墓参りや老人会への参加や馴染みの喫茶店へは、家族の協力にて外出支援している。地域の盆踊、夏まつり、秋祭り等への参加は職員が外出支援している。	地域の季節行事には、利用者も毎回参加し、交流を深めたり、併設施設を利用している友人に会いに行っている人もいる。家族等の来訪が多く、一緒に外食や外出している。一緒にカラオケを楽しんだり、旅行の写真を見て懐かしむこともある。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理や掃除、手芸等の活動の場面場面で得意とする利用者が他の利用者に教えたり、手伝ったりと協力し合えるよう、座席を考え、言葉かけを行うなどして利用者同士の仲間意識を高める支援に努めている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所して同法人の特養に入居された方の所へ利用者と一緒に面会に行ったり、入院退所された方を誕生日会に招待するなどして、本人、家族との関係性を維持し相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、家族に生活歴や思い、意向をセンター方式に記入して頂いたり、聞き取るなどして、できる限り入居前と同じ生活ができるよう、本人にも話を聞き、毎月のモニタリング・カンファレンスで職員全員で話し合っている。	普段、職員が昼食後やおやつの時に話を聞いたり、会話の中で聞き取ったことなどを参考にしている。特に困難な場合は、家族と相談して、利用者の思いに近づけるよう努めている。嬉しそうな表情の時や落ち着いた様子などに注意して観察し、察知することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用にあたっては自宅を訪問し、生活様式や近隣の生活環境の把握を行い、ご家族が記入した頂いたセンター方式シートを参考にし、生活歴や馴染の暮らしを把握し、在宅ケアマネジャーとの連携を図る等している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の持つ能力に応じたレクやアメーティを日々考え提供している。職員と共に家事を行う過程で包丁を使ったり、味見、盛り付け、洗いもの、掃除機掛け、拭き掃除等々の様々な活動をして頂くことで、出来る事を見出している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が原案を作り、他の職員の意見を求め、カンファレンスを行い作成している。往診医、訪問看護師、管理栄養士、PTの意見等も取り入れている。	ケアチェック表の改定により、職員の日々の状態確認が確実に、早くできるようになり、より共有が図れる体制となった。医療関係者の意見や家族の意向も反映して、その人らしい暮らしができる計画となるよう作成している。原則、毎月のモニタリング、半年毎の見直しとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表を見やすく改正し、職員間の情報共有が迅速に行えている。ケアチェック表を基に毎日のミーティングを実施し内容を個別記録に記入しており、職員全員で情報を共有しプランの見直し等支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況(心身や経済状況等)の変化に伴うニーズに随時対応し再入所や看取りケア、母体施設(特養)への紹介等、柔軟な対応を行っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と共に運営推進会議の案内を民生委員宅に届けたり、コンビニに出向いたり地域との馴染の関係作りをしながら、協働支援に繋げている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞きながら往診医や地域の専門医、同法人内の診療所等の医療機関を受診できるよう連携を図っている。	入所時に利用者、家族に希望を打診し、多くは協力医の往診(1回/w)を受けている。24時間オンコール体制や、法人内の訪問看護サービスもある。眼科や整形外科など、家族による受診となっている。歯科往診もあり、安心した医療体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理報告書に1週間の気づきや体調の変化を記入し訪問看護師と情報共有し早期対応(受診)に努めている。また退院後の施設でのケアについてのアドバイスをもらい健康管理を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院内の地域医療室と連絡を取り、相互の関係作りを行っている。 入院中は、こまめな面会を心がけ、退院カンファレンスへの出席、早期退院に向けて支援している。	往診医や訪問看護師の協力で、早めの受診を心がけ入院回避に努めている。入院となった場合は、管理者がこまめに見舞い、退院に向けてのカンファレンスにも参加している。そして、早期退院にむけ事業所での受け入れを整えるようにしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの体制、対応について十分説明し、納得頂いている。 終末期の対応については、家族・主治医・訪問看護と都度話し合いを行い、出来る限り個々の要望に添えるよう早めの対応に努めている。	入所説明時に、浴室などのハード面も含めて、終末期等について説明している。状況に応じて、主治医や訪問看護師、家族を交えて十分に話し合い、本人や家族の要望に応えられるよう努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体施設の全体研修にて緊急時対応研修を職員、パートを含め、年2回行っている。 ホームでも会議で再確認している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設の訓練に加え、ホーム独自でも利用者も参加して、年2回行っている。	母体法人の年2回の消火訓練に引き続き、事業所独自の避難訓練を実施している。利用者も参加し、夜間想定も実施している。運営推進会議で報告し、少数だが近隣の参加も得ている。備蓄などは法人で行っているが、車いすなどの用意はしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームのHAS目標に「入居者が大切にされていると感じられる対応をする」を掲げ、一人ひとりを認め尊重するよう心がけている。プライバシーについては入職時に個人情報保護の制約を行っている。	職員は、利用者のいる前での申し送りについては、プライバシーを十分配慮している。接遇などの研修も重ね、「言葉のワースト10」を明示し、利用者を尊重するケアを常に目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昼食の選択メニューの決定や週1回の移動パン屋での買い物、レクの内容などで利用者の意向を引き出せるように出来るだけわかりやすい表現で説明し希望に添った対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康を維持するための大まかな日課はあるが、基本は本人主体であり、意向や体調に添って日々、個々の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの習慣で毎日メイクする方やもいる。外出の機会には普段と違うおしゃれやメイクをするなどの支援を行っている。希望者には訪問理美容を調整し好みの髪型を聞きカットしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁作りや盛り付け、後片付け等、職員が見守りながら共に行っている。週1回の調理の日には希望を考慮しながらのメニュー作りを心がけ、昼食は選択メニューで食の楽しみが継続できるよう配慮している。	母体法人から食事が届く。炊飯と汁ものは事業所で作っている。週1回の調理の日には、利用者もメニュー作りから後片付けに至るまで参加できるように工夫し、職員と共に食事を楽しんでいる。晩酌も可能である。焼き芋やホットケーキなどのおやつも手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の給食課より管理栄養士により栄養管理された食事メニューが提供されている。月1回体重測定を行い体調管理を行っている。水分摂取量を記録し1日の必要水分摂取を確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、支援を要する方には、職員が歯間ブラシ等で介助を行う。総入れ歯でない方へは歯科往診、口腔ケア指導を受けている。義歯は義歯用ブラシを使用し職員が細かな部分の汚れを落とすようにしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせてトイレ誘導・言葉かけ・見守りを行う。時間を見てトイレで排泄ができるように誘導し、リハビリパンツ→布パンツへ移行できている。毎日のトイレ掃除や下着チェック等で排泄チェックする。	日中は全員が布パンツのみやパット併用となっている。夜間はリハビリパンツやポータブルトイレを利用する場合もあるが、トイレでの排泄を基本としている。居室担当者が居室内トイレ清掃時に、自立者の排泄チェックを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	科学的介護の根拠に基づいて日々、水分補給に努める。個人差がある為配慮し、居室の配茶、随時のお茶の提供、ファイバーを取り入れる等し毎日の体操レクと月2回の体操教室、日々の家事活動の運動により自然排便を図っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の様子や状態をみながら言葉かけを行い、基本2日に1回の入浴を行い(希望に応じて毎日)無理強いせず個々の要望に沿った対応をしている。天然温泉。	湯温を個々の好みに合わせたり、音楽を流したりしてゆっくりと楽しめる時間としている。拒否のある利用者にも、時間をずらして別の職員が誘うなど工夫している。清拭や足浴なども対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は居室で休憩される方が多いが、リビングでTVを観たり、休息され自由な時間を提供し本人にとって自然なリズムとなるように支援している。夜間良眠出来るように、日中の活動を促進したりタクティールケアを継続して実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に医師から説明を受け薬局からのお薬情報書でも確認し、新たな薬の追加や変更は、薬剤師から説明を受け、症状の変化や副作用が疑われる場合は医師、薬剤師に速やかに報告している。誤薬予防の為、服薬前までに3回のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる活動を共に行っている。カレンダー日めくりや折り紙、手芸、調理、習字等々、個々が持つ力を発揮できるような内容を提案し、晩酌等の嗜好も取り入れ楽しみと遣り甲斐に繋がるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事では、春・秋はバスで遠出。家族も一緒に参加などの協力を得ている。喫茶や買い物、地域の行事にも個々に合わせた対応により、出来る限り支援を行っている。	事業所前の桜並木の散歩や、外での体操、朝の事業所前の清掃など、気候のよい時期は毎日のように外出している。春や秋の紅葉見物などのバス旅行は多くの家族も参加し、毎年の楽しみな行事となっている。家族と一緒にカラオケや外食に出かける利用者もいる。	



自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	孫やひ孫の面会時には「こずかいを渡したい」という思いを受け、家族の協力を得てお金を所持してもらったり、毎日のタオルたためでお手伝い貯金をし宝くじやおやつを買うなど、お金を貯めたり使う楽しみが持てるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物のお礼の電話したり、家族からのTELや本人が希望する場合は、いつでも電話をかけられるようにしている。年賀状は毎年送っている。いつでも送れるようにお手紙セットを持っておられる方もいる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、掃除を利用者職員が一緒に行い清潔保持に努めている。リビングではアロマテラピーや癒しの音楽、ソファやコタツ等のくつろぎ空間を作っている。居室、リビングは中庭に面し自然光が入り、中庭の季節の植物や畑の野菜の成長を眺め、収穫物を食し楽しんでいる。	モダンな日本家屋の玄関を入ると、直接リビングが見えないように、障子風間仕切りを配し、家庭の雰囲気を意識している。リビングでは、ソファの向きをかえて、テーブルのある空間と、炬燵の空間を独立させている。テーブルで本を読む利用者、炬燵に入りテレビを見る利用者と、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置変えをし、冬はコタツでお茶をしたり寝転んでTVを観ている。夏は広々とした空間を作り家を感じて頂ける工夫をしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	永年使い慣れた家具を自宅より持ち込まれ、居心地の良い自分なりの空間を作られている。家族との写真や自身の作品も好きな場所に置いている。	各室にトイレがあり、畳のある和室だが、入り口の板敷きとは完全バリアフリーである。ベランダの障子や壁クロスも落ち着いている。刺繍の得意な利用者の作品を取り入れたチェストがあったり、ひ孫を含む家族の写真が飾られたりと個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで要所に手摺を設置。居室は和室だがベッドを置き、個々に合ったサイドレール、移動用バーを設置し安全な起居動作を支援している。トイレの場所が分からない方には電気を点け、少し扉を開ける等の配慮をしている。		